

令和5年3月那珂川市議会定例会
代表質問通告書

順番	会派	質問事項	質問の要旨（具体的に）
1	みらいえ	(1)「支え合い、安心して暮らせるまちづくり」について	① 消防団の運営について <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団員の確保について ・ 女性消防団員の職務について ・ 各分団・部・班の運営方法について ② 具体的な防犯カメラの整備について
		(2)「誰もが学び、育むまちづくり」について	① 那珂川市教育サポートセンターについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 「不登校児童生徒への教育支援」と「不登校対策の中核機能」の具体的内容は。 ② 第2子以降の保育料無償化について <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2子以降の保育料完全無償化の考えはあるか。 ③ 病児保育の受入れ枠について <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の病児保育の受入れは、十分な対応ができているか。 ・ 患者急増等により、病児保育施設で受入れ困難な場合、ふれあいこども館で臨時受入れを行い、その際にファミリーサポートセンターを活用してみてはどうかと考えるが見解は。
		(3)「自然と調和した快適に暮らせるまちづくり」について	① 都市公園整備について <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て世帯の移住が見込まれる本市において、南畑地区を含め、都市公園の再整備が必要と考えるが見解は。
		(4)「自然の豊かさを感じるまちづくり」について	① 「ゼロカーボンシティ那珂川」宣言について <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民、事業者、行政が一体となった「オール那珂川」とあるが、具体的内容は。 ・ 他自治体では行政主導の電力会社を立ち上げる動きもみられるが、その考えはないか。 ② 昨年度、みらいえが提言した小水力発電の可能性について
		(5)「地域の資源を活かした活力あふれるまちづくり」について	① 観光の推進についてどのような形で実現していくのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡市及び吉野ヶ里町との連携中枢都市圏構想を検討すべきと考えるが見解は。

順番	会派	質問事項	質問の要旨（具体的に）
2	清流自民	(1)「市民の安全な暮らしを守るまちを実現する」について	① 消防団員の確保において、どのような広報を行うのか。消防団の誇りを持てる対策はないのか。
		(2)「高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせる環境をつくる」について	① 緊急通報装置貸与事業において、新たに導入する携帯型機器の機能と従来型との違いと、そのメリットは。
		(3)「安心して出産、子育てできるまちをつくる」について	① こども家庭センター設置に向け「事務分掌の整理」とは何か。今後、設置に向けどのように進捗していくのか。
		(4)「市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる」について	① スポーツ施設の計画的な改修、修繕とは、具体的にどの施設で、いつ頃までを目途としているのか。
		(5)「自然と調和した快適な都市基盤をつくる」について	① 五郎丸地区新市街地創出について、どのようなサポート体制を想定しているのか。現時点での進捗は。
		(6)「地域を結ぶ安全・便利な道路交通ネットワークをつくる」について	① 県道平等寺那珂川線について、筑紫野市との協議や県への要望はどのように行ってきたのか。今後、どのように進めていくのか。
		(7)「安全で快適な生活環境をつくる」について	① 公園施設長寿命化計画の対象物と、その修繕等はいつからスタートするのか。
		(8)「地域の経済・雇用を支える産業を創出・育成する」について	① 水源地域振興計画について、以前策定された水源地域振興基本構想とどのようにリンクしていくのか。 ② 水源地域のさらなる魅力向上とは、具体的に何を示すのか。
		(9) 受益者負担について	① 議案第30号の受益者負担率の改正を受け、他の事業の負担率の見直しは検討できないか。

順番	会派	質問事項	質問の要旨（具体的に）
3	公明党	(1)「地域を結ぶ安全・便利な道路交通ネットワークをつくる」について	① 県道平等寺那珂川線の改良についての課題と今後の要望活動の具体的な取組を尋ねる。
		(2)「豊かな自然環境を受け継ぎ、活かす社会をつくる」について	① 間伐等の適切な整備が行われていない荒廃森林は、豪雨時には甚大な被害を引き起こす原因ともなるため森林の適切な管理を優先事項とすべきだ。そのためには積極的に森林の所有者へ管理要請を行い、また管理できるように支援することが必要だが考えを尋ねる。
		(3)「環境に配慮した地域社会をつくる」について	① 行政活動以外で排出される温室効果ガスを削減するためには、市民、事業者、行政が一体となって取り組む「オール那珂川」で推進する体制づくりを進めるとあるが、市としての削減案を尋ねる。
		(4)「自然資源を活かした農林業を振興する」について	① 温室効果ガス吸収源の機能を持たせるには林業の維持発展も必要だ。そのためには森林経営の視点を持ち、森林振興の施策を積極的に推進すべきだが、具体的な構想はあるのかを尋ねる。 ② 「目指すべき将来の農地利用の姿」には、農業関係者との地域ごとの話し合いの場で幅広い意見の集約を行うとあるが、話し合いの土台には、市の農業振興の方向性が重要だが、市の農業政策の構想を尋ねる。 ③ 収益を増やすことが農業の活性化につながる。そのために農産物の販売促進プランや販路開拓が重要だと考えるが見解を尋ねる。

順番	会派	質問事項	質問の要旨（具体的に）
4	無所属の会	(1)「支え合い、安心して暮らせるまちづくり」について	<p>① ボランティア団体と市民をつなげるため、ボランティアに興味・関心がある方への市のLINE公式アカウントを活用した情報発信を行うとあるが、ボランティアの受入れ、会員募集、活動への参加など、現在ボランティア支援センター「くるりんぼ」が行っているが、団体情報の把握状況及び新規情報の収集内容、方法は。</p> <p>② 防災士資格の取得に向けた「市民防災リーダー養成講座」を実施するとあるが、現在までの資格取得者数と活動状況及び今後目指す資格取得者数は。</p> <p>③ 消防団員の入団促進のための消防団活動の広報など、団員の確保に努めるとあるが、分団各部を構成する地域と密に連携した取組も必要だと考えるが、見解は。</p> <p>④ 地域包括ケアシステム構築のさらなる推進のための施策を明らかにするとあるが、介護サポーター活動支援事業の充実と第2層協議体との情報交換や連携活動もアフターコロナを見据えて取り組むべきと考えるが、見解は。</p>
		(2)「誰もが学び、育むまちづくり」について	<p>① 全ての妊産婦・子育て世帯・子どもの包括的な相談支援等を行う「こども家庭センター」はいつ頃、どこに設置し、具体的にどのような支援を行うのか。</p> <p>② 「不登校児童生徒への教育支援」と「不登校対策の中核機能」といった2つの機能をもつ「那珂川市教育サポートセンター」の場所、規模及び職員体制は。また、外部機関との連携は考えているのか。</p> <p>③ 放課後子供教室などの地域学校協働活動を積極的に進めるとあるが、コミュニティスクールとの一体的運営となっているのか。また、具体的な方法と現在の活動状況は。</p>
		(3)「自然と調和した快適に暮らせるまちづくり」について	<p>① 職員がやる気とやりがい、満ちあふれた気持ちで働くことができるよう、働きやすい職場づくりを推進するとあるが、今年1月に出された、職場内コミュニケーションの活性化や、あらゆるハラスメントを許さないことなどをうたった「働きやすい職場づくり」宣言に沿うものと考えて良いか。</p>

順番	会派	質問事項	質問の要旨（具体的に）
4	無所属の会	(4)「自然の豊かさを感じるまちづくり」について	① 「ゼロカーボンシティ那珂川」宣言では、「気候非常事態が地球規模であることを市民や事業者の皆さまに認識していただき、この危機に対し、市全体で地球温暖化対策に取り組む必要があることから、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指す」としている。「ゼロカーボンシティ推進担当」を設置し、市民、事業者、行政が一体となって取り組む「オール那珂川」で推進する体制づくりを進めるとあるが、具体的な内容、組織、補助金などの有無は。
		(5)「地域の資源を活かした活力あふれるまちづくり」について	① 観光の推進については、吉野ヶ里町や福岡市等の周辺地域と連携し、それぞれの資源や機能等を活用し、五ヶ山クロスを含む背振山系を中心としたエリアの活性化を図るとあるが、なぜここでグリーンピアなかがわを廃止する条例を提案するのか。また、水源地域周辺に限定した推進方針になっているが、吉野ヶ里町の観光の中心は国特別史跡吉野ヶ里遺跡であり、本市の二つの国史跡安徳大塚古墳、安徳台遺跡をはじめ、日本遺産裂田溝やその他の遺跡、神社仏閣も含めた、所管を超えたハイブリットな推進が必要と考えるが、見解は。

順番	会派	質問事項	質問の要旨（具体的に）
5	日本共産党	(1) 岸田大軍拡路線について	① 春日基地地下化など「日本が戦場」と想定された準備が着々と進められている。敵基地攻撃が那珂川市へもたらす危機についての見解は。 ② 市民のいのちと暮らしを守るために、無謀な戦争推進計画をやめるよう国に働きかけるべきでは。
		(2) 物価高騰から市民を守る支援策について	① 現状の取組と今後の方向性は。 ② 上下水道料金引き下げや家賃補助など負担軽減策を恒常的に行うべきでは。
		(3) 新型コロナウイルス感染症について	① 国が感染法上の位置づけを現行の2類から5類に引き下げようとしているが、何が変わるのか。 ② 市民への影響は。 ③ 科学的で正確な情報発信を市として行うこと、またコロナ医療費の公費負担や無料PCR検査継続等を国や県に求める必要があると考えているか。移行に対しての市の対応は。